包括的な学校改善の視点：働き方改革、教育課程・学習指導

校務ＤＸから授業改善と働き方改革を推進する学校モデル

中核校	岩見沢市立東光中学校	指定校	岩見沢市立岩見沢小学校 岩見沢市立東小学校

■　構築した学校モデルの具体

○ 組織体制の構築

・既存の特別委員会に加配事務職員を加えたコア・チーム会議を立ち上げ、OODAループのサイクルで業務環境改善を進める。会議は長期休業中と年度末に開催するほか、Googleチャットを活用した意見交換も行う。

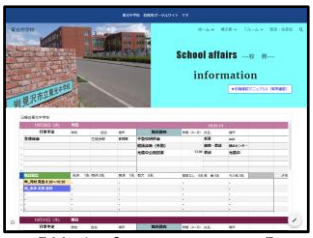
【コア･チーム会議】

○ 業務の効率化に向けた取組の充実

・朝の職員室に時間的余裕を生むため、３校で学校と保護者との連絡ツール（tetoru）を導入し、欠席連絡がオンラインで確認できるようにする。また、教員と生徒が一緒に活動する時間を確保するとともに、文書送信機能を活用し、印刷コストの削減につなげる。

・校務支援システム（C4th）の掲示板の積極的な活用により、職員朝会の時間を短縮するとともに、Googleドライブとの併用により、各種文書のペーパーレス化を図る。

・Googleチャットの活用や校務ポータルサイト・大型ディスプレイの新設により、情報共有のデジタル化を進め、教頭業務の縮減を図る。



【校務ポータルサイト】

○ １人１台端末の日常的な活用による学びの充実

・各教科、総合的な学習の時間の探究活動や特別活動（学校行事）において、学習支援システム（ロイロノート）の活用を定着させ、生徒が主体的に自己選択・決定して利用できるようにする。

・技術・家庭科の技術分野「情報の技術」の学習として、タイピングソフトを導入し、生徒のタイピングの技能を上達させる環境を整備する。

・不登校生徒や校内支援センター（T-room）利用の生徒の要望に応じてオンライン授業を配信し、学びの保障に努める。

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

・学校経営方針の重点に働き方改革を位置付け、運営組織として管理職を除いたコア・チームを設置した。管理職の助言の下、組織に一定程度の裁量権を与えることで円滑に業務改善が図られるよう工夫した。

〔専科教員・事務職員の取組〕

・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すことはもとより、理科の見方・考え方を養うために必要な「課題解決のプロセス」を位置付けた授業展開に重点をおいた。そのため、課題に対する仮説や解決方法を話し合い、実験・観察を通して考察する課題解決を図る学習過程を構築した。また、小学校第６学年「土地のつくり」の単元においては、複線型の授業を実施したことにより、子どもたちの学びに向かう力の向上が図られた。

【自ら課題を設定し、学習を複線化】

・事務職員がコア・チームに入ることにより、各委員の意見を直接聞き取ることができ、必要な予算について管理職と協議し、全体周知までの過程を迅速に進めることができるように工夫した。

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・小中連携組織の１つである「３校をつなぐ会」主催のＩＣＴ研修会において、文部科学省学校ＤＸ戦略アドバイザーの菅野　光明氏を講師として複数回招聘し、校区のＩＣＴ活用や校務ＤＸについて、教職員が共通理解を図る機会を設定した。

・日常的に校区内の教頭間で連携を図り、３校で取り組む内容について共通認識をもって地域協議会に臨むことができた。また、事務職員間の連携により、高速印刷機の試験的導入やポータルサイトの活用について情報を共有し、校務ＤＸの加速化を図ることができた。

・市教委主催の働き方推進部会（教頭部会）において、構築した学校モデルについて説明を行い、共有を図った。